

デジタル・ヒューマニティーズ

どんな研究？

情報学的ツールを人文学に活用することで、どのような新しい知を生み出せるでしょうか。書籍の分析とデータ統合を例に、研究成果をご紹介します。

何がわかる？

- 古い地図を位置合わせすると、消えていた過去の遺跡が見えてくる。
- 古い写真を位置合わせすると、失われた過去の景観が見えてくる。

状況設定

人文学は資料（史料）を多用する分野であり、情報学的ツールは資料（史料）の整理や分析に威力を発揮します。そしてビッグデータの時代を迎え、データを「読む」技術の発展が、人文学を大きく変えていく可能性があります。



デジタル・シルクロード・プロジェクト（2001～）において、情報学と人文学の共同研究に基づく「デジタル人文学」の研究を進めています。

研究内容

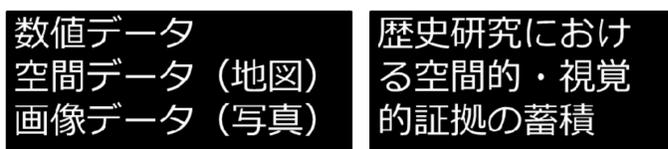
1. 砂漠に消えた遺跡の再発見



地図の遺跡はどこ？

上空から探そう！

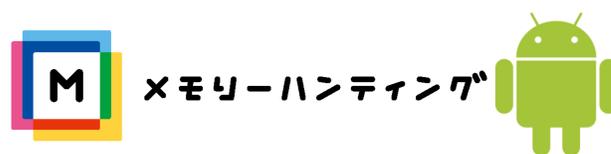
デジタル史料批判：デジタル技術を用いて、史料を定量的に読み解く方法論誤差等を考慮し、地図を批判的に解釈。



デジタルツール：アルゴリズムとデータベース

史料を横断的に比較するツール＋エビデンスを蓄積できるツールを開発し、遺跡情報データベースの構築を目指す。

2. 失われた景観の再発見



メモリーハンティング

「メモリーハンティング（メモハン）」
無料公開中！



フィールドワーク



この写真はどこ？

現場で探そう！

アクティブファインダー：次に撮影すべき構図をファインダーに半透明表示
身体を使って、写真と景観を位置合わせ。

ARとは似て非なるモノ！



1. 古写真の撮影地推定
2. 災害前後の景観変化
3. フォトオリエンテーリング
4. コンテンツ聖地巡礼
5. パーソナルな写真再現